

(様式6-1) 社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	産業拠点へのアクセスを改善する道路整備									
計画の期間	平成26年度 ～ 平成30年度 (5年間)			交付対象	牧之原市					
計画の目標	大規模工場増設、工業団地造成による産業拠点の本格稼働に合わせ、通勤車両並びに製造部品納入トラック等の円滑な交通を確保するとともに、周辺道路の整備を行うことで、域内の安全安心な交通を確保する。									
計画の成果目標 (定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業拠点へ向う車両の分散化</li> <li>産業拠点へのアクセス時間の短縮</li> </ul>									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考			
				当初現況値 (H26当初)	中間目標値 (H28末)	最終目標値 (H30末)				
① 交通結節点 (東名高速道路相良牧之原IC及び御前崎港) から産業拠点入口までの走行時間の短縮 現況走行時間－完成後走行時間				—	—	6分				
②										
③										
全体事業費	合計 (A+B+C)	2,742 百万円	A	2,742 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0%

静岡県社会資本整備重点計画における位置づけ			
第2期 (H20～H24)		第3期 (H25～H29)	
分野名		分野名	
目標名		目標名	
指標名	目標値 (H24)	指標名	目標値 (H29)

**事後評価**

1. 交付対象事業の進捗状況 (○:計画期間中に完成 △:計画期間終了後に完成見込 (備考欄に完成予定時期を記入、未定は空欄) -:その他 (備考欄に具体的に記入 (中止、未実施等))  
(計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●:本計画の期間中に完成 ▲:本計画の期間終了後に完成見込 (備考欄に完成予定時期を記入、未定は空欄))

<b>交付対象事業</b>																		
<b>A1 道路事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	進捗状況	備考
											H26	H27	H28	H29	H30			
A01-001	道路	一般	牧之原市	直接		市町村道	改築	(他) 老丁田北線	バイパス L=0.773km	牧之原市						1,410		
A01-002	道路	一般	牧之原市	直接		市町村道	改築	(他) 大倉老丁田線	バイパス L=1.545km	牧之原市						1,160		
A01-003	道路	一般	牧之原市	直接		市町村道	改築	(1) 東萩間西原線	道路改良 L=0.635km	牧之原市						172		
											合計					2,742		
<b>B 関連社会資本整備事業</b>																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	進捗状況	備考	
										H26	H27	H28	H29	H30				
											合計					0		
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考		

C 効果促進事業													進捗状況	備考			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	進捗状況	備考
										H26	H27	H28	H29	H30			
合計													0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

(参考) 計画の成果目標を同一とする地域自主戦略交付金の交付対象事業

(別添「事業実施計画」参照)

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

・(他)老丁田北線及び(他)大倉老丁田線の新設により、産業拠点への通勤車両や製造部品納入トラック等の交通が分散された。これにより、産業拠点周辺道路での渋滞が解消し、アクセス時間の短縮が図られた。

II 定量的指標の達成状況	指標① (交通結節点から産業拠点入口までの走行時間の短縮)	最終目標値	6分	目標値と実績値に差が出た要因	当該事業路線に隣接する国道473号バイパスの整備との一体的な効果により更なる交通分散が図られ、目標を上回る結果となった。
		最終実績値	11分		
指標② ( )	最終目標値			目標値と実績値に差が出た要因	
	最終実績値				
指標③ ( )	最終目標値			目標値と実績値に差が出た要因	
	最終実績値				

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

・産業拠点周辺道路の渋滞が解消したことで、地域の交通環境や生活環境が向上した。  
 ・道路ネットワークが強化されたことによる車両の分散や走行性の向上により、区内の交通事故件数が約50%削減された。  
 ・(1)東萩間西原線の道路改良においては、新たに歩道が整備され、歩行者空間の安全性・快適性が向上した。  
 ・(他)大倉老丁田線は、産業拠点から国道473号バイパスへ直結するアクセス道路となり、新たな交通網の整備による走行性向上や輸送車両の定時性向上が図られた。  
 ・事業の投資効果(事後評価実施時期:令和元年度) (他)老丁田北線及び(他)大倉老丁田線の整備後(B/C)=3.16  
 ・道路混雑の緩和による自動車の速度向上に伴い、CO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>、SPM排出量が削減された。

3. 特記事項(今後の方針等)

現在、国道473号バイパスを国道1号島田金谷バイパス菊川インターチェンジへ延伸させるべく、整備が進められている。これにより、御前崎港から国道1号までのネットワークが強化されることとなり、交通の円滑化がさらに期待されている。また、当該事業路線から北へ約4kmの地点に位置する東名高速道路相良牧之原インターチェンジの北側では、新たな地域拠点となる土地区画整理事業が進行中であり、これに関連して本地域の交通需要が高まると考えられる。今後も地域内の円滑で安全・安心な交通を確保すべく、適切な維持管理に努め、産業活動や地域生活の支援を図る。

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事後評価書原案を作成して、社会資本整備総合交付金事業事後評価委員会を開催し、有識者に意見聴取を実施する。	令和元年度
	公表の方法
	評価完了後、市のホームページに掲載予定。

(様式6-1) 社会資本総合整備計画 (参考図面)

計画の名称	産業拠点へのアクセスを改善する道路整備	交付対象	牧之原市
計画の期間	平成26年度～平成30年度 (5年間)		

